

平成26年度第3回「松阪市地域公共交通協議会」議事録

日時 平成26年 9月29日(月) 9:30~

場所 松阪市役所 5F 正庁

【出席委員】 寺本博美、加藤博和、小藪助次右衛門、中村真弓、馬場栄一郎、内田茂雄、中村利明、尾張雅史、森本臣紀、鳥田茂、西出みはる、松本隆雄、田中和子、長谷川悦子、寺脇功、野田敏幸、代理：川端賢一、濱瀬悦生、代理：藤原政嗣、長谷川浩司、長野功、松林育也

【関係者】 三重交通、三重名鉄タクシー、三交タクシー、桜福祉タクシー、嬉野地域振興局、飯南地域振興局、飯高地域振興局

【事務局】 交通政策室 室長：前中茂 主査：大塚弘也 係：三田歩

《協議事項》

1. 会長あいさつ

2. 議 題

(1) 現在の松阪市地域公共交通総合連携計画の総括及び課題について

(2) 作業部会協議内容の報告について

(3) 各種調査などの途中経過報告

3. その他

《協議内容》

会長

事項書に基づき進めてまいります。本日は報告事項が3件で、審議することがございませので、報告いただきながらご意見などいただきたいと思ひます。では、議題1について事務局から説明お願ひします。

事務局（「現在の松阪市地域公共交通総合連携計画の総括及び課題について」資料に基づき説明）

会長

まず、松阪市の交通に関する総合的な計画の経緯を紹介いただきました。これは、27年度から30年度に向けて新しく策定する松阪市地域公共交通網形成計画を受けてという理解をたまわりたいと思ひます。一方、交通政策基本法が昨年に策定され、それにあわせて対応が変わってくる部分もあります。そうした背景のもとでこれまでの松阪市の地域公共交通に関する課題、鉄道との関わりなど4点ほどありましたが、これについて、委員の方からご意見などありましたらご自由にお願ひします。今日は、決めるわけではありませ

るので。

委員

市内の中心ですが、最近、勤労百貨店が閉店しまして、旧市内のお年寄りがすごく多くて、これからどうするのかという意見が出ているので、考えてほしいと思います。

会長

特に、交通の問題ではなく、市内に住む高齢者の日常生活の利便性、店が閉まって郊外に行くこともありますが、そこに行ける環境づくりができてないと思いますし、どうやってアクセスするかという問題を考えなければいけないですが、まちづくり全体との兼ね合いだと思いますし、交通問題だけでなくどうしたら良いかということ都市計画からのお考えを聞きたいと思います。

委員

勤労百貨店の閉店が9月ということで、先日の新聞にも出ていました。まさに中心市街地、松阪駅周辺については、これまであった商業施設が無くなるなど、少子高齢化の中で日常的な部分で不便な部分があり、現状なかなか特効薬が無く、歯止めがかからないという状況もある中で、先ほどの資料の中にありました上位計画で豪商のまち松阪生き生きプランというものがあり、以前は松阪まちなか再生プランというものでしたが、その中でまちなかでの取り組みをしていただいています。この中に参加していただいている方も見えるのですが、交通との関係の中で、交通網だけ整備するのではなく、目的地というもの、まちづくりというものを一体的に考えていく中で、交通網というものを整備していかなければいけないと考えています。正直、勤労百貨店が無くなり変わるものを、日常生活をどうすればいいのかという話だったと思いますが、市としても盛り上げていくために取り組んでいる状況です。答えになっているかは分かりませんが、以上です。

会長

別に答弁などではありませんので。全般的にまちづくり、地域創生という言葉もありますが、アクセス方法というのは、何のための地域公共交通なのかと、後段で鈴の音バスとの関連も出てきます。一つの目的を達成するために一つの手段というのは、最低限の条件であって、色々な形でまちづくりを考えなければいけないのですが、交通の問題の視点から見ていきたいと思います。何か関連して。

委員

課題の中で、乗り継ぎの関係でお客さんから聞いた話です。鈴の音バスに乗っていますと、黒部などの人から、乗り継ぎが上手くいっていないという指摘をいただきましたが、

コミュニティバスから路線バスの乗り継ぎもですが、コミュニティバス同士の乗り継ぎもダイヤ変更をする場合は、考えていただきたいと思います。

会長

できるだけ余裕があるカタチでのシームレスで乗換ができるの良いかと。いろいろな交通機関があります。他にございますか。私もよく松阪で移動するときは、バスです。バスに乗ると、マイカーは邪魔に見えるし、マイカーに乗っているとマイカーが多いと感じます。松阪の交通事情はそういうものなのかもしれませんが。他にございますか。

委員

鉄道とのかかわり方ですが、松阪駅、中川駅以外で有人の駅というのが、櫛田だけです。他は、ホームと形だけの上屋があって、乗り降りする人がチラホラ、東松阪駅は高校生の乗降はありますが、電車で通過してもここに駅があるのかという感じです。こういった駅の活用は具体的にどういうことがあるのか。例えば、小さな図書館を併設するなどといったことも、ある程度の利用者がなければ見込めませんし。松阪駅と伊勢中川駅を除いたら路線バスもコミュニティバスもアクセスしていない駅ですが、活用ということをどのように具体的に考えていますか。

事務局

現在考えている活用は、その駅の周辺に住んでいる方達が、どこにでもマイカーを利用するのではなく、できるだけ利用できなら鉄道を利用するように啓発していきたいと考えています。また、コミュニティバスについても、今までですと松阪駅と伊勢中川駅を最優先になっていましたが、それ以外のコミュニティバスを検討する際には、この二駅以外も含めて検討していくべきだと考えています。

会長

そここのところは、利用者がいれば特に提供する側の問題、必要とする側の問題のバランスで解決できます。おそらく経済性からみて難しいところをどうするかというのが、公共交通の問題だと思います。ただそれを好意でやるのかやらないのか、あるいは我々が話し合っただけで決めるのかということは、私たち自身で決めなければいけないことです。実は、交通政策基本法がお手元にあると思いますが、主語が何かということを気にしてください。この中で、「地方公共団体は」という主語が2つ、「国が」という主語が19あります。「政府は」が5箇所。国のウェイトが高く、国が何をするという、固い決意があるという部分が気になります。地方公共団体やそれに関わる交通関連事業者は、連携を謳いつつも、少ないことが気にならないでしょうか。何かございますか。行政の役割もありましたが、それ以上に国が出ています。この問題については、全般的な話なので、2番目の報告の中で

のほうでご意見でるかもしれません。

副会長

交通政策基本法の話が出ましたが、成立するときのシンポジウムで、担当とディスカッションしました。その中で、この法律は、国が公共交通についてどういう取り組みをするかということを書いたもので、自治体に対してどうこうというものじゃないという回答でした。なので、そういう程度で考えれば良いかと思います。一方、この会議の根拠になる地域公共交通活性化再生法が11月20日頃に施行されるということです。公布自体は5月にされていますので、それが変わることはありません。その中身を議論しているところですが、解説されたように地域公共交通総合連携計画が地域公共交通網形成計画になると、大事なポイントは網です。市内の公共交通全体のネットワークをどういうふうに良くしていくかという計画にしてくださいというのが、国の要求です。なので、松阪の計画は、一応鉄道や三重交通の路線バスについて書いてあったのですが、関与するようなことはありませんでした。新しい公共交通網形成計画については、そこもやってほしいというところではあります。私自身は、名松線をどうするのか、路線バスと鈴の音バスをもう少し一体的に運用できないかということずっと申し上げてきましたが、やはりそういうことが、新しい法律でやっていくように、そういうものじゃないと、形成計画として認めませんという方針です。新しい形成計画の策定については、そこも考えざるを得ません。無理にやる必要は無いですが、やれそうなことは、盛り込む必要があると思います。

駅の話が出ましたが、駅の活用については、無人駅は非常に殺風景で、治安もどうかと思います。全国的には、無人駅を鉄道会社と交渉して、地域で活用するや、店を設けるなど色々やっていることがあります。それを形成計画に書くということも行なわれているので、一つの選択肢ではあると思います。中心市街地活性化計画やコンパクトシティ関係のことは、今回の法律ですごく意識されているところで、松阪市が必ずしもそういう方針じゃないと思いますが、意識はしたほうが良いと思います。買物難民の話もありましたが、これは国交省だけでなく、経産省や総務省も注目しているところで、中心市街地が実は、買物しにくくなっているということがよくあるので、それに対して、鈴の音バスや路線バスが対応しているかという検証は、資料2の作業部会の議論としてやらなければいけないと思います。従来は、田舎からどうやって、街に連れてくるかというのが話題でしたが、中心市街地もそういう状態になってきているところが、松阪市にもあるかもしれません。あと、乗り換え、乗り継ぎの議論もありましたが、細かい内容もあるし、なるべく近いところでバスを乗り換えできるように案内するなど、ダイヤは乗り換えられても、片方が遅れてできなかったなどをどうするか、細かい話ですが、そういうことをきちんとやっていくということを、計画に盛り込まないといけません。大まかな部分は、変える必要はないと思いますが、法律の趣旨を見ながら、松阪市全体の公共交通がどうしたらよくなるかということ、きちんと書き直して、形成計画にすれば良いと思います。

あと、三重交通のゾーン通勤定期について、きちんと紹介してほしいと思います。10月から松阪駅から180円区間についての1ヶ月定期、3ヶ月定期があって、180円区間内なら自由に乗り降りできるというものです。こういうもので鈴の音バスも利用できるようにするなど、別のところでは、ゾーン定期でコミュニティバスも乗れるというものを作ったり、1日乗車券を店に持っていくと割引が受けられたり。こういったことを計画に書けるなら書くと良いと思います。それも今回の趣旨にかなうと思います。

会長

細かい課題もたくさんあったと思いますが、新しいネットワークを形成する計画についてでした。確かに繋がりで、利用だけでなく、お金、料金の繋がりというものもあります。ICカードはどこでもありますが、近鉄は使えるが、JRは使えない。四日市まで使えますが、バスもICカードで乗りますが、全部が一つで使えると本当は良いと思います。都会の利便性があるので、そういうもので変わると思います。私も千葉で、バスも電車も全部それでいけると。そういうのもネットワークの一つのポイントになると思います。

2番目の議題について、説明をお願いします。

事務局（「作業部会協議内容の報告について」資料に基づき説明）

会長

鈴の音バスということで、それに関連した報告でした。実際にバスに乗っていただいたと、アンケート調査の評価などはまだ時間がかかると思いますので、実際に体験していただいた感想などはどうでしょう。

委員

先般、体験乗車ということで、私も一部分乗ったことはありますが、1周回るといったことは初めてでした。その中で、感じたことは、非常によく考えられたコースだと思いました。バス停で待っている人も初めてバスに乗るという感じではなく、乗り込んでも要領よく乗られて、このバスが愛されているというか、常時乗ってもらっているのかと思います。鈴の音バスとすれ違くと、空で走っているということはありませんし、市民の方に馴染んでいただいていると。色々課題はありますが、観光とどうリンクするか。今この地図で見ると、明白ですが、中心部、幸地区の人などは、高齢化が進んでいるということで、近くに病院はありますが、買物の用途に困っているなどがありアンケートをとっているところでございます。そういったカタチの中で、今のコースが1周1時間になっていて、要望を取り入れていくと、1周が延びて、今の利用者に不評になってしまう部分があり、非常に悩ましい問題があります。いっそコースを分けてしまうのか、バスごとにコースを変えるのか、色々な意見が出てくるとと思いますが、生活路線としてこれからどう考えていく

かを意見をいただきながら考えていきたいと思ひます。その中で、既存の三重交通の路線とかぶる部分もあり、そういう部分については、三重交通を使つてもらふということを含めて、意識の浸透を図つていきたいと思ひます。なぜ鈴の音バスが良いのかという、安いというのがあり、100円バスがほしいといった声もありますが、本数がそれほどありませんので、そういう部分も住民の方に説明しながらよりよいコミュニティバスの敷設ができればと考えております。

会長

特徴が料金が安いということですが、この地図のバスの運行状況を見ていると、基本的には松阪市の核になる部分ですかね。どうしても新しく開発されたところ、農業地帯、徳和地区も基本的には農業中心でしたが、虹ヶ丘などもあります。問題は、100円ということが、17年から100円でできています。実際には、三重交通が重なって運行していません。もし100円が変わったらというアンケート、三重交通と同じ条件としたら、同じならどちらに乗っても良くなります。方向によって変えるなど。路線バスが複数走るところですと、料金が一緒です。利用者が多いといへば多いかもしれませんが、方向で利用者が考えられないか、100円だから乗るのでしょうか。皆さんはどう思われますか。

鈴の音バスのそもそもの役割が変わってきているという話もありましたが、買物を中心に、利用者からも分かりますが、マックスバリュやアドバンス、ぎゅーとらとスーパーが中心になっています。全部一緒にやろうというのは大変だと思います。観光で使おうと思うと、延びますし。買物バスというのは長距離乗らないほうが良いのかと思ひます。私の身近な例でいくと、蘇我駅の近くにハーバーシティというのがあり、そこまで歩いて4kmくらいと歩けなくは無いですが、無料巡回バスがあります。買物に行くときだけ。お店の前に止まります。こういうのでやっていくと、限られた用事でやっているの、それ以外にまったく使われない。買物だけの巡回バスというのもあり、駅から出ています。鈴の音バスはまったく違った目的、色々な目的が入っているので、難しいと思ひます。一方で路線バスがありますし、そういったところの整理が考えても難しいです。千葉のバスですが、何社もあり、同じバス停を使いながら、離れながら、色々な方向に走っています。中心から離れていますが、バスを利用される方が多い。深夜バスもあります。都会なのだからかもしれませんが、あれば乗るのかと。深夜バスは値段も高く、一方ではタクシーもありますから。

作業部会の方、鈴の音バスを乗られた感想をお願いします。

委員

長年乗られたドライバーでした。車内案内の声が小さいというのは、私が言ったことですが、高齢者の利用者が多いので、気にしていただきたいと思ひます。多気の三重交通も良いと思ひます。高齢者一人ひとりに声をかけます。そういうことが必要かと思ひますし、

住民をスーパーや病院に輸送というのを考えるべきかと。スーパーからお金を頂戴し、運営資金にするというのもありかと思います。

委員

バスを運行している部分と、乗車した部分から話させていただきます。さきほど委員からご指摘のあったことに関し、乗務員によって個人差があると感じました。再度、指導させていただき、お客さん一人ひとりに目を配った運行をさせていただくよう改善してまいります。音量的話ですと、夏場の時期と秋ではエンジン音などがだいぶ違います。季節に応じた音量にしていくと、同じバス車内でも前の方と後の方とで聞き取りにくさが違いますので、エンジンをかけた後、自分で確認をして、適量の音量で案内するようにと指導したところです。事業者としては、鈴の音バス1周1時間ということで、その中で、ショッピングセンターなど入っていきますので、乗用車が多いところを走行しますので、乗務員もかなり気を遣いながら運行しています。その中で、スーパー、ショッピングモールですと、乗用車が多いため、ダイヤに遅れが生じることもあり、今後改善の余地があるところだと感じております。

委員

利用の実績はかなりありますが、数年前に高校のクラブのOB会に10人くらいで利用しました。みんなこんなにサービスが良いバスがあるのかと驚いていました。特に市民病院で、玄関前まで入り、ガードマンがいて、車イスなどの人を手伝うし、走る前には駆けってくる人がいないか確認し、運転士に発車してくださいという。こんなバスは珍しいと思っていました。松阪駅東のマンションに転居しましたが、その関係で、よく済生会病院回りの便に乗りますが、利用度が低いと思います。こちらを回るのに12~3分、混雑しているともっとかかります。ハローワークまで延長すれば良いのかとも思います。

委員

黒部のコミバスについては、スタート時から関わっています。路線の調査を兼ねて乗ることがありましたが、時間帯、曜日によって商店街のシャッターが閉まっていて、目的がハッキリしていないと行先が困ります。街の活性化が目的であれば、商店街とのタイアップを意識して協力して運営をしていかなければいけないと思います。大きな市の活性化の問題と思いますが、確かに利用される方にとってはありがたいと思います。私はマイカーに乗れますので、マイカーを使っていますが、18年の黒部に関わっていますので、バスにわざと乗ります。今回は、コミバスは福祉バスのような感じですが、市民病院に行くのに鈴の音バスが便利とのことですが、黒部は済生会に行くためのバスかなという感じはしましたが、事実その利用が多いのですが、黒部は当初の目的の800人程度はキープしています。鈴の音バスは、体験乗車ということで、乗りましたが、マイカーですと、停留所

などが目に付かないのですが、バスで細かく止まると、知らない病院やお店など新しい発見があり、マイカーでは走らないコース三重高どおりから、駅部田に入るコースなど普段通りませんが、意外と乗降者がおり、バスが便利だと感じました。料金の面についてですが、100円は非常に魅力的なところでして、それ以上上がるとどうかと思います。都会には、無料バスがあるそうですが、値上げはどうかと思います。100円で定着させた方が、利用は減らないと思います。観光という面では、夏に乗車しましたが、車内は非常に快適でして、バスで涼むというのも良いと思いました。音については、あまり気になりませんでした。鈴の音バスの利用の仕方はその人によって、もっと有効に使える良い路線だと思いました。観光にどうリンクさせるかというところもありました。

委員

継続は力なりということを利用する皆さんを見て、感じました。乗り降りする姿が非常にスムーズで上手に利用されていると感じました。鈴の音バスの運転士を見ていると、とても丁寧な運転をされていると感じました。

会長

作業部会の委員さんがじかに感じたことを話していただきました。これから数回検討していただくとと思いますが、このお話を参考にしながら、課題はあると思いますが、良い方向で。まずは、乗ってみて、アンケートと。直接この鈴の音バスと関係のない、部分もありますが、コンパクトシティという小さくまとめていこうという話があったり、10年くらい前になりますが。問題を解決する一つの方向性だと思いますが、利便性を高め、コストをかけず、できるだけ質の高いまちにしていこうという時代の要請があったと思います。他にございますか。

3番目の現在実施している調査についてです。事務局から説明をお願いします。

事務局（「各種調査などの途中経過報告について」資料に基づき説明）

会長

色々調査をしていてその途中経過です。モニタリングについて、三重運輸支局からお願いします。

委員（「松阪市における生活交通の運行等に対するモニタリング実施業務について」資料の基づき説明）

会長

モニタリング実施の結果については、また来月ということですが。

結果について何かご質問等ございますか。

委員

鈴の音バスの回数券ですが、1枚1枚ちぎって使うのは、不便だと思います。初期投資や、回数券の協賛広告との兼合いもありますが、できればカード形式のものにしてくださいとありがたいと思います。エコにもなりますので。長い目で見て、ゆくゆくは考えていただきたいと思います。

会長

チケット、回数券の使い方。コストと利用者の関係だと思います。どんどん多くの方が利用してもらえば、回数券は面倒だと思うでしょうが、効率だけでなく、併せてよい方向を考えていただければと思います。他にございますか。ICカード化されてチャージして現金を持ちあるかないということになってきていますが、財布にカードが増えすぎている気もしますが。提供する側として、切り替えるコストというのは、どうでしょう。

委員

三重交通のバス路線についてですが、ICカード化を図ろうと計画しているところです。時期は明確にできませんが、全国共通の方式のものを取り入れる計画をしているところです。鈴の音バスは、市との相談になると思いますが。

副会長

カードの話が出ましたが、名鉄バスはマナカが使えるので、コミバスの支払をマナカでしませんかとやっています。知立市、安城市は名鉄バスに変わりますが、マナカが使えません。コミュニティバスの場合は、ポイントは付きませんが、割引はしないと。全国的には、紙の回数券が多い状態です。100円であれば、1枚ちぎるだけですので。徳島では、520円でしたので、どうちぎるかというのがあり、違うレベルの面倒くささでした。我慢していただくしかないかと思います。調査自体は、これからどうこうできないので、私自身申したいのは、色々出てきている話で、鈴の音バスを改善するなど、小手先でできるものではなく、この会でも何回も申していますが、変わらないことばかりで、忸怩たる想いですが、形成計画に向かってそこをきちんと変えていかなければいけないと思います。運賃についてですが、安いのが良いのに決まっているのですが、100円を見直すというのは、東海3県でかなり出てきています。そのことと、整合性をといわれるのが、なぜ路線バスが高く、コミバスが安いのかということです。その理由は、補助金が入っているか、入っていないかということとして、なぜコミバスは補助を入れなければいけないと、路線バスは普通なのかというのが、完全に不公平じゃないですかという風に言われたら、答えられないというのはあります。また、宇気郷線と阿坂小野線は、松阪市の路線でありなが

ら、三重交通の運賃になっています。独自の部分だけについては、100円にするなど、そういったことも考えられるのですが、そういったこともしてきませんでした。その部分は、調べてほしいと思います。三重交通とまったく一緒のところ、下げると混乱しますが、独自の部分でどうなのか。独自のところだけで100円にしたらどうかと。独自の部分の利用が少ないわけで、実際下げても大した減収にならないと考えられます。それをやったら、独自の部分の利用者がどれだけ増えるか調査をするべきだと思います。鉄道なども含めて、何が問題で、どう変える必要があるか、見取り図を作り直さないといけないと思います。次回は、12月までに松阪の公共交通の問題点を洗い出して、すぐできること、ちょっと考えたらできること、当分できないことといった風に、分類して、これは、2年以内、これは5年以内にやるといったそういうものを次回出してください。私も確認しますので。

会長

料金設定を含めて重要な課題があります。

その他、最後のところで三重交通さんがパンフレットを配っていただきましたので。

委員（「ゾーン制通勤定期について」資料に基づき説明）

会長

新しい商品ということで、どうぞご利用ください。

以上をもちまして、本日の議題すべて終了しました。